

2019/01/13

「神があなたに望むこと」

■神はあなたに何を望んでいるのか

クリスチャンであれば、神が望んでいることをしたいと願うものです。では、神は私たちに何を願っておられるのでしょうか。神は、最も大切な戒めとして「神を愛し、人を愛しなさい」と教えておられますが、それは具体的にどのような生き方を指すことなのでしょうか。

多くのクリスチャンが、良い人間になろうと努力し、成功することを求め、神もそれを喜ばれると思って頑張っています。しかし、神が人間に願っておられることは、そんなことではありません。神が私たちに望んでおられることは、ただ一つ、「神の慰めを受けること」です。人は皆、慰めを求めて生きています。それを人ではなく、神に求めて生きてほしいのです。

■人は慰めを与えられない

「また、わたしを信じるこの小さい者たちのひとりにでもつまずきを与えるような者は、むしろ大きい石臼を首にゆわえつけられて、海に投げ込まれたほうがましです。もし、あなたの手があなたのつまずきとなるなら、それを切り捨てなさい。片手でいのちに入るほうが、両手そろっていてゲヘナの消えぬ火の中に落ち込むよりは、あなたにとってよいことです。もし、あなたの足があなたのつまずきとなるなら、それを切り捨てなさい。片足でいのちに入るほうが、両足そろっていてゲヘナに投げ入れられるよりは、あなたにとってよいことです。もし、あなたの目があなたのつまずきを引き起こすのなら、それをえぐり出しなさい。片目で神の国に入るほうが、両目そろっていてゲヘナに投げ入れられるよりは、あなたにとってよいことです。そこでは、彼らを食ううじは、尽きることがなく、火は消えることはありません。」(マルコ 9:42-48)

「つまずき」とは、自分の願うものが得られなかったり、自分が目指す道が閉ざされたりすることです。私たちはよく腹を立てたり、怒ったりしますが、それは、自分が期待したものが相手から手に入らなかったということです。それが「つまずき」です。

私たちが手に入れたいと求めているものは、一人一人違うようでありながら、実は本質は同じで、それは「慰め」です。なぜなら、人は誰もが苦しみを背負っているからです。

私たちは、苦しみを取り除こうとして、人に慰めを求めては裏切られ、「私のことをわかってくれる人など一人もいない」と言って嘆きますが、人が人を完全に理解することなど不可能です。いくら人に慰めを求めても、あなたのことをわかってくれる人など、どこにもいません。ですから、私たちは腹を立てるしかないし、つまずくしかないのです。すると今度は、快樂・富・名誉など、ほかのものに慰めを求めるようになりますが、そんなもので紛らわせ

ようとしても、慰めを得ることはできません。結局、人はこの地上では慰めを得ることはできないのです。

「つまずきを与える」とは、「慰めを与えられない」ということです。この地上では、誰もが苦しみの中にあり、慰められたいと願いながら、完全に相手を慰めることは誰にもできず、結局誰も自分の苦しみをわかってもらえずにいます。すべての人が「私のことをわかってほしい」「私と一緒に生きてほしい」という願望を抱いていますが、夫婦でも親子でも、それをかなえるのは不可能です。ですから聖書は、それを人に求めることはやめなさいと教えているのです。

■何によって慰めを得るか

「すべては、火によって、塩けをつけられるのです。塩は、ききめのあるものです。しかし、もし塩に塩けがなくなったら、何によって塩けを取り戻せましょう。あなたがたは、自分自身のうちに塩けを保ちなさい。そして、互いに和合して暮らなさい。」

(マルコ 9:49-50)

「火」とは「苦しみ」を表し、「塩」は「慰め」を表します。「ゲヘナの火は消えることがない」とありますが、この世界がまさにゲヘナであるとも言えます。私たちは誰もが朽ちる体を持ち、神の愛が見えない苦しみを背負っています。「火によって塩けがつけられる」とは、その苦しみにによって神の慰めを受けることができるという意味です。

この世界に慰めを求めてもそれを得ることはできませんが、神があなたを慰めてくださいます。神の慰めは効き目があるものですが、もし神の慰めが慰めでなくなったとしたら、何によって慰めを得られるというのでしょうか。私たちは、私たちのうちにおられる主によって慰めを得ることができます。その結果、互いに和合して暮らすことができるのです。

私たちが平和を保てないのは、人に慰めを求めるからです。人に慰めを期待し、人に自分をわかってもらおうとするから、それが得られないために、怒りや憎しみが生まれます。ですから、自分自身のうちに主をお迎えするならば、人との間に平和を保つことができます。私たちが慰めを感じることができる条件は、自分のことをわかってくれて、自分と同じ立場に立ってくれることです。それができるのは、イエス・キリストしかいません。

■イエス・キリストの慰め

「私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯されませんが、すべての点で、私たちと同じように、試みに会われたのです。」(ヘブル 4:15)

イエス・キリストは、私たちが慰めるため、神の立場を捨て、人間と同じ立場に身を置い

てくださいました。真の思いやりとは、苦しんでいる者の立場に喜んですべてを置くことです。しかし、人間にはとてもそのようなことはできません。私たちは人に同情を示すことはできても、いつも自分を安全地帯において、そこから苦しんでいる人に手を差し伸べることしかできないのです。だから、人は人につまずくしかないのです。

しかし、イエス・キリストは、すべてを捧げて人となられました。そして、私たちの苦しみよりもはるかに多くの苦しみを背負われたのです。それは、私たちと同じところに身を置くためです。イエス・キリストの生涯は、まさに私たちを支えるための生涯なのです。

貧困、孤独、悪意、病など、人がこの地上で遭遇するあらゆる苦しみを、イエス・キリストは体験されました。キリストは、生まれてすぐに飼い葉おけに寝かされ、家も財産もなく、枕するところすらない貧困に身を置かれました。また、すべての人々から見捨てられ、蔑まれ、弟子にも裏切られるという孤独を体験なさいました。イエス・キリストをほめたたえていた大勢の人々が離れていき、その後逆に彼らから罵りを受けました。

また、イエス様の生涯は、迫害の連続です。幼い時からの知り合いはイエス様を軽んじたあげく崖から突き落とそうとし、パリサイ人たちからは常に命を狙われていました。捕らえられたイエス様は、ムチ打たれ、拷問され、唾をかけられ、罵声を浴びせられました。ムチで打たれた皮膚は裂け、脇腹を槍で刺され、十字架で亡くなるまでの間、ただ死に向かうしかない苦しみを体験なさいました。

こうしてイエス様は、この世の誰よりも孤独を体験し、悪意を体験し、痛みを体験なさいました。この地上で最も重い病は死ぬ病ですが、イエス・キリストは十字架によって、死に向かうしかないその苦しみを体験してくださったのです。

イエス・キリストは、人を慰めるもの以外、何も持っておられませんでした。立派なことをすれば、人々から称賛を受けるでしょうが、それは誰を慰めることにもなりません。イエス様は、立派な人としてあがめられるためにこの地上に来たのではなく、苦しむ人と同じ立場になるために、人となられたのです。いのちであり、永遠である神が、死の世界に来られて、その身に死を背負われるとは、人には想像できないほどの苦しみです。死とは、神との結びつきを失うことです。イエス様は、十字架で想像を絶する肉体の苦しみを体験し、さらに父なる神と御霊との結びつきを失うという絶望の頂点を味わわれたのです。イエス様が、そこまでの苦しみを味わわれたのは、人を慰め支えるためです。その慰めは、イエス様にしかできないからです。

だからイエス様は、「人に慰めを求めることはやめなさい」と言われます。それは、ただつまづくだけであり、苦しみの中にとっただけのことになるからです。人に慰めを求めるのではなく、神ご自身が慰めるから、自分自身の内に塩気を保ちなさいと主は言われます。

■とりなし

さらに、イエス・キリストは、この地上で誘惑という苦しみを御受けになりました。私たちは、悪いとわかっているのに、罪を犯してしまうものです。イエス・キリストは、罪は犯されませんでした。私たちが同じように試みに遭われました。

たとえば、貧困から生まれる誘惑に食べものの誘惑がありますが、イエス様もその誘惑を受けられました。また、神のようになりたいと自分を高くしようとする誘惑や、富や名誉を手にしたいという誘惑にも遭われましたが、イエス様はその誘惑に負けませんでした。

ですから、イエス様は私たちを慰めることがおできになるのです。私たちが、誘惑や試みの時に慰めを受け取る方法は、誘惑に負けないように戦うことです。私たちが誘惑を受けた時、その誘惑と戦って「イエス様、助けてください」と求めるなら、誘惑を忍ばれたイエス様の姿を思い起こされ、神の慰めが見えてくるのです。

「そういうわけで、神のことについて、あわれみ深い、忠実な大祭司となるため、主はすべての点で兄弟たちと同じようにならなければなりません。それは民の罪のために、なだめがなされるためなのです。主は、ご自身が試みを受けて苦しまれたので、試みられている者たちを助けることがおできになるのです。」（ヘブル 2:17-18）

大祭司とは、とりなす人のことです。イエス・キリストは、人としてこの世に来られ、私たちと同じように試みに遭い、苦しみました。ですから、イエス様は本当の意味であなたを慰め、助けることがおできになるのです。

また、イエス様は、ご自身が罪を犯さなかったことによって、私たちに擁護することがおできになります。それが、私たちにとってもう一つの慰めになります。イエス様はご自身を私たちの苦しみと同じ立場に置くことで、私たちの罪を赦し、弁護し、擁護し、あわれむことができるのです。イエス・キリストの生涯は、人を慰める生涯です。だからこそイエス様は、病に苦しむ者や人々から嫌われる罪人と共に過ごされたのです。

■神の慰めを受ける

あなたは、いったい何に慰めを求めているでしょうか。私たちの慰めは神から来ます。神から慰めを受けた者は、人からの慰めを必要としなくなりますから、人に見返りを求めなくなります。すると、人間関係がうまくいくようになるのです。これが「和合」です。人に慰めや見返りを求めるのではなく、神からの慰めを受け取って、人と和合して生きるように、聖書は教えているのです。

神の慰めを受け取ると、私たちは人を愛せるようになっていき、聖書に書いてある行いが重荷とはなくなります。神の慰めを受け取ることなく、見た目だけ良い行いにしても何の意味もありません。

神が私たちに望んでおられることは、あなたが立派になることでも、世の中で成功することでもありません。神が望んでおられるのは、ただ一つ、神の慰めを受け取ることです。神はあなたの本当の苦しみを知っておられ、それは成功やお金を手にするによって、解決しないことを知っておられます。「その問題を解決するのはわたしだから、わたしに慰めを求めなさい。」と、神は語っておられます。それだけが、神があなたに望んでいる事柄なのです。あなたが自分と正直に向き合い、苦しみが何であるかに気づいて、神の慰めを受け取ること

を望んでおられるのです。

イエス・キリストの生涯は、あなたを慰めるための生涯です。イエス・キリストは、あなたの痛みを知り、あなたをわかってくれる唯一のお方です。その方が「私のところに来なさい、私があなを慰める」と言っておられます。イエス様が苦しみに身を置いたのは、私を慰めるためです。主の前で重荷をおろし、神の慰めを受け取りましょう。